

JOFPA の活動終了に立会い 今、新たに HANDS の運営に関わるにあたって

寄稿 1

新理事(元 JOFPA 副会長) 河原紀夫

チボリ国際里親の会の活動の終了

チボリ国際里親の会 (JOFPA) は、33 年にわたり、サンタ・クルス・ミッション学校法人の経営を資金援助することで、チボリ族の未就学児の就学を促進させ、住民の生活の向上を図ってきました。

しかし、会員の減少により支援力は年々減退するに至りました。一方、現地では小学校の公立化が進むとともに、住民の自助努力も高まり、自立の環境が整ってきました。

このような状況を勘案して、今年をもって JOFPA の支援契約は終了することとなりました。

現地と会員の支援の要望

JOFPA が対象としてきたレイクセブ地区は、近年、観光開発やインフラの整備が進み、経済力も大幅に向上しましたが、その周辺の山岳地域では、基盤が整わず経済格差が拡大しています。

町の教育担当者は、未就学児童の多い山岳地域の初等教育普及について日本の支援に期待しています。サンタ・クルス・ミッション学校法人 (SCMSI) からは、生徒の就職率の向上のための職業訓練や資格取得、安定した学校経営のためのプロジェクトの実施等について、支援の要請を受けました。女性の組合 COWHED では、高校生のための寄宿舎の整備や住民の経済力の向上を図るプロジェクトへの支援を要望しています。また、教会でも土地活用技術の教育や産物販売の指導などによる経済力の向上の支援を私たちに期待しているようです。

支援の内容・方法・窓口も含めて従来の支援の枠を超えて検討する時期に来ていると思われます。

一方、JOFPA では、未就学児の教育支援が必要だと考える会員が多く、従来の里子支援の継続を要望される会員が約 200 名に達しました。

HANDS の協力で支援を継続

このたび、HANDS の協力を得て里親教育事業が継続できることとなり感謝の念に堪えません。

当面は、SCMSI の教育里子の学費・給食費・制服などの支援と若干の学校の先生の給料の支援が継続されます。

また、新たに JOFPA 基金を設置していただき、HANDS の支援の学生も含めて、資格取得のための奨学金の支給や遠方の学生が必要とする学生寮などの運営支援の事業を実施することとしました。

広く山岳民族の未就学児童の支援を

今後は、これらの教育支援事業の範囲とその内容を再検討して、未就学児童の支援が山岳民族全体に広く適用できる体制を確立することが望まれます。

また、あわせて山岳住民の経済力の向上と環境の整備・保全を図る事業への取り組み拡大が必要とされます。

これまでのボランティア活動をとおして、教育には、人間を成長させ、社会を発展させる限りない力があることを実感しました。微力ながら、もう少し、会員の皆さんのお力をお借りして、ミンダナオ島の山岳民族への支援を支えるお手伝いをさせていただくとともに、会員の願いを現地に伝えて、実のある支援が継続できるようにするための助力をさせていただければ幸いです。

河原氏は、JOFPA 活動終了にあたって、副代表として、事務局の関根さんとともに、残務整理や記念誌「33年のあゆみ」発行に関わられたと伺いました。新理事としてのご挨拶とともに、今後の HANDS の支援の在り方を含めて寄稿いただきました。(事務局 山崎)

